ルーテル学院だより

NO.142
2020.4.1

http://www.luther.ac.jp/

発行 ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校
〒181-0015
東京都三鷹市大沢 3-10-20
TEL:0422-31-4611
FAX:0422-33-6405

発行人 石居 基夫

「心に留める日々を」

学長 石居 基夫

終わりに、兄弟たち、すべて真実なこと、すべて気高いこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて名誉なことを、また、徳や称賛に値することがあれば、それを心に留めなさい。

（フィリピの信徒への手紙　四章八節）

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

いよいよ、皆さんにとって、このルーテル学院大学、大学院、日本ルーテル神学校での新しい歩みがスタートします。皆さんの人生の大切な時間を、しばらくこの学院で過ごされるわけです。

105歳で亡くなるその最期まで現役医師として働かれた日野原重明先生は、いのちは時間だとそう言われました。そして、その時間を若い時は自分のために使う。しかし、歳を経たらその時間を他者のために使うとそう教えてくださって、他者のために生きるいのちのあり方をお話しくださいました。

学生時代、人生の中で自分の学びと生活のためにこれほど多くの時を費やせることは、決して当然の事ではありません。もちろん、楽なことばかりではないけれど、この学院で過ごされる日々は、皆さんに与えられた贈りものでしょう。そして、この掛け替えのない大切な時間が、やがて誰かのために生きる自分のいのちを作りあげる。

この聖書の言葉は、パウロという人が、自分の大切にしている人たちに宛てて書いた手紙の最後の部分の一節です。愛する人たち、大事に思う人たちに、どうしても伝えたいことがある。パウロは、ここで、「真実なこと」、「気高いこと」、「正しいこと」など八つのことを挙げていますが、それらはどれも人生の目標となるようなものと言って良い。一生をかけて追い求めていくものです。それらを挙げて、一つひとつ心に留めなさいという。「心に留める」と訳された言葉は語源を調べますと、「言葉にする」、「記録する」という言葉からきています。私たちが生きていくその目的、目指すもの、それらがどんなに自分にとって大切なものなのか、どうして大切にしなければならないか。そういうことを考え、尋ね求めるには言葉が必要です。それはどんな自分を生きるのかということを自分の言葉で考えていくということなのです。

学生時代には沢山のことを経験します。いろいろな人や出来事に出会うでしょう。一冊の本に出会うこともある。嬉しいこと、楽しいことが大学生活を彩る。しかし、嫌な思いをすることもあるでしょう。厳しく、辛い経験もある。でも、楽しいことも嬉しいことも辛いことも、それだけでは過ぎ去っていくだけです。その経験の中から、自分に大切なことをどうやって汲み取っていくか。ここで生きる時間は、どの一つもあなたにとって無駄なものはありません。自分にとってかけがえのない意味を見出すのは私たちの言葉です。真実とは何か、愛すべきことは何なのか。自分の経験していることをあなたの言葉によって掘り下げていく。

その言葉を大学生として、ここで学ぶ学生として鍛え、豊かにしていただきたい。きっとあなたには大切なこと、愛すべきこと、清いということ、本当に称賛すべきもの、徳に値することというものが何か見えてくる。生きるとは何か。人間とは何か。あなたはいったい誰なのか。

この大学にはチャペルがあって、毎日礼拝が行われます。チャペルでは、皆さんが自分の人生に呼びかけられていること、求められていること、その言葉を聞くことができます。キリスト教の信仰を持つかどうかではなくて、あなたの人生の深い問いがあなた自身によって深められていく、そのための呼びかけ、語りかける言葉を聞くことでしょう。

この学院で過ごす時、それを通り過ぎていく時間としないで、心に留める日々として過ごし、あなた自身のいのちを言葉によって紡ぎ出してほしいのです。

新入生へのお祝いのメッセージ

学生会会長からのメッセージ

臨床心理コース3年（県立倉吉西高等学校出身）　土井 聖司

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

皆さんと一緒にこのルーテルでの日々を過ごせることを有り難く思い、心より歓迎いたします。

私も2年前、多くの方の支えと祝福の中で入学を果たしました。

私の場合、浪人を経ての入学でしたから、最初は勉強だけを頑張ろうと気張っていました。そのような中、とある先輩と出会ったことをきっかけに学生会執行部に所属することとなり、気がつけば勉強も活動もしながら楽しい毎日を過ごしています。

大学生活にはそのようなふとしたきっかけや出会いが多く存在します。授業での学び、サークルや委員会での活動、アルバイトやインターンシップなど、数え出せばきりがありません。そのような些細なきっかけや小さな出会いを大切にしていけば、いずれ大きな夢にも繋がってくれることでしょう。

最後に日々の歩みは一歩一歩です。どんなに大きく踏み出しても、全く進んでいないように思う時も一歩です。時々、振り返ってみてください。そうやって歩んできた一歩があなたを支えてくれます。また、その日々に助けや支えがあったことも見えてくるでしょう。自分と人を大事にしながら、ともに歩んで行けばきっと充実した毎日を過ごせると思います。

新入生の皆さんの一歩一歩が守られ、大学生活が豊かな日々でありますようにお祈りしています。

大学院生からのメッセージ

臨床心理学専攻修士課程2年　馬場 素子

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。この場を借りて皆様をお祝いできることを大変嬉しく思います。これからの新しい生活が、皆様にとって成長や発見といった実りあるものとなりますよう心よりお祈りいたします。

さて大学の生活はいかがですか。折角の機会ですので、可能な限り存分に学生生活を楽しみ学んで下されば思います。そのためには大学の環境に慣れ、日々安心して過ごしていけることがその基本にあるのではと考えています。私自身を振り返ると、通学に慣れる、学内で迷わない、日々講義を受ける、落ち着く場所を学内に発見するといった小さなことの結果が学生生活を楽しむことにつながっていったように記憶しています。

学業は自ら取り組む面もありますが、色々アドバイス下さる先輩方の存在は有難く、共に学ぶ同級生と支え合う、このような人との関わりを抜きに学びを進めることは考えられません。学部でも大学院でも同様に感じます。どうぞ周囲の方々と協力し、時に助けを借りてみてください。先生方はじめ多くの方も見守ってくださっています。自らの歩みを進め、時に失敗し、立ち止まり、それぞれの学生生活を作り上げていただければと思います。ご活躍をお祈りしています。

修学アドバイザー制度

臨床心理学専攻修士課程2年（修学アドバイザー） **寺島　輝**

修学アドバイザーの活動は、教員・学生支援センター・図書館・大学院生の連携のもと、2019年10月に新しくスタートしました。修学アドバイザーは、大学生を対象に修学・学習支援を行うことを主な目的としています。大学の授業では、高校生の頃のような試験形式に加えて、授業の内容や先行研究に基づいて自分の意見を述べるレポート形式の課題も多くあります。その際、レポートの書き方に戸惑ったり、資料や文献の探し方が分からなかったり、先生に質問しづらかったりなど、様々な〝やりにくさ〟を感じるかもしれません。そのような〝やりにくさ〟を、私たち修学アドバイザーが学生と共に解決できるように手助けさせていただきます。

今年度はわずか4か月間の活動でしたが、多くの学生に訪れていただきました。レポートの相談に始まり、卒業論文に関する質問、グループワークの進め方、さらにはパソコンの扱い方など多種多様な相談に対して、本人の力で解決できるよう助言してきました。今後は新入生に向けた、履修や単位についての対応も検討しています。4月からは、学年が上がり授業が専門的になったり、大学での勉強に不安があったりするかもしれません。そのような時は気軽に修学アドバイザーを訪れてみて下さい。貴方からのご相談をお待ちしています。

JELAと提携した海外異文化体験プログラムのスタート

教授 **原島　博**

本学国際交流委員会（IEC）は、長年にわたり日本福音ルーテル社団（JELA）が若者を対象に実施してきた海外異文化体験ワークキャンプへ本学学生を2020年度より派遣することになりました。

JELAでは、これまで米国、インド、カンボジアで活動するNGOや教会とのネットワークを通して、日本と現地の若者や地域の人々が一緒に汗を流しながら働き、相互交流をすることを支援してきました。米国ではルーテル教会が受け入れ母体となりミシガン州でのホームステイ、イリノイ州プリンストンのコミュニティで暮らす高齢者の家屋の修繕などワークを行い、インドでは、CRHP（Comprehensive Rural Health Project＝病院を基盤として総合的に人々の健康維持に取り組む非営利組織）が下肢の切断を余儀なくされた方々に提供する義足製作の補助作業、カンボジアではルーテル世界連盟（LWF）やLWD（Life with Dignity＝保健衛生の向上に取り組む組織）が実施する村での衛生改善や保育活動への協力を行ってきました。

JELAには、本学で行われる秋の「一日神学校」でブースを出していただき継続的に交流を行ってきました。

福祉、心理、キリスト教を学ぶ本学の学生たちにとって海外でのワークキャンプを通じて国境、民族、文化の違いを越えて隣人に仕える生き方について具体的に学ぶ機会となることを期待しています。

入学前スクーリング報告 熱い思い！

准教授 **上村　敏文**

AO入試、各推薦試験で合格した高校生を対象とした入学前スクーリングを12月、2月に行いました。対象者全員に小論文のテーマを課して、それを添削しました。とにかく「赤ペン先生」になりきり、一枚一枚の答案と向き合い、細かく分類した点数表に従い採点をしてコメントを付記しました。

一枚としておろそかに書いてあるものはなく、全員が真剣に取り組んでいることが、手書きの答案からひしひしと伝わって来ました。第一回目の答案を受け取るまでは、私自身も高校生がどのようなことを書いてくるのか全く予想ができなかったのですが、名前と顔も一致しないにも関わらず、文章を通してまるで対話をしているような錯覚に陥りました。

何よりも、若い研ぎ澄まされた感性で率直にまとめてあり、採点している私の方が何度もハッとさせられ、感動を覚えることがしばしばありました。まさに大学に入って、真剣に学んでいきたいという熱意を感ずることが出来たのは教師冥利につきます。真剣に課題に取り組んでくれた学生に感謝したいと思います。

ルーテル学院 卒業式

学生支援センター長 **村上　秀紀**

新型コロナウィルス感染症の拡大で多くの大学が卒業式を中止する中、本学院では3月13日に第53回ルーテル学院大学、第18回ルーテル学院大学大学院、第91回日本ルーテル神学校の卒業式を挙行しました。

式典は卒業生と教職員のみ参列で随所に感染防止に細心の注意を払った形で執り行われました。市川学長による説教「輝く命」、石居神学校長の祈りに続き、卒業証書・学位記授与では一人ひとりの名前が紹介され、その後、学部生・大学院生は市川学長より、神学校生は石居校長よりお祝いの言葉が贈られました。今年度は学部生62名、大学院生13名、神学校生1名の計76名が卒業されました。

合格者の集い

准教授 **植松　晃子**

2月20日（木）に「合格者の集い」が開催されました。この集いは、本学に入学予定の方に、大学の様子を知ってもらい、教職員、新入生同士で顔見知りになってもらうために、毎年開催しているものです。今年は55名の入学予定者と教職員が集まりました。はじめに次期学科長の田副真美先生に開会のご挨拶をいただき、その後、本学チャプレンの河田優先生をはじめ、各コースの主任の挨拶、お楽しみ自己紹介プログラムとティータイム、学生支援の紹介（学生相談室、健康管理室、学生支援センター）、図書館の入学前利用の案内などが進められ、次期学長の石居基夫先生からのメッセージをもってつつがなく終了しました。ティータイムには、本学に所縁のある工房「時」のパウンドケーキを、今年も頂きました。

この記事が掲載される頃には収束していることを祈りますが、新型コロナウイルスの問題が起きていましたので、事前に対策を検討し、プログラムも一部変更したのですが、参加者の協力によって安全に実施することができ、楽しい時間が過ごせました。事前準備に関わってくださった教職員の皆様にお礼申し上げますとともに、入学予定の皆さんとまたお会いできる日を楽しみにしております。

聖歌隊ハンドベル ジョイントコンサート報告

臨床心理コース4年（都立大江戸高等学校出身） **中村　希世**

2月22日（土）、日本福音ルーテル東京教会にて、ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校 聖歌隊とハンドベルクワイア ラウス・アンジェリカによるジョイントコンサートが開催されました。コンサートのテーマは、私たちの中にある人や時、愛といった様々な結びつきがあることの喜びを表現したいと考え、「結び」に設定しました。

今回は全体の構成を大きく変え、各団体の曲を混合させたプログラムにしました。初めての試みでしたが、前年度とは違い、新鮮味のあるものになりました。また、聖歌隊は少人数でありながら美しいハーモニーを奏でており、4年生と3年生による合唱では聴いている人を魅了させる素敵な歌声を披露しました。ラウス・アンジェリカは、3年生2人で演奏する曲や、OBOG団体である「響」の協力を得て5オクターブのハンドベルを用いた迫力のある演奏を行いました。

最後の曲では来場者とともに合唱をし、出演者と来場者が一つになった結びつきを感じられるコンサートとなりました。今回、コンサートを無事に開催をすることができたのは協力してくださった方々のおかげです。心より感謝いたします。